

# 英 語 II R

科目責任者 飯塚 秀樹  
 学年・学期 2学年・通年

一  
学  
年

## I. 前 文

語学学習の目的は言語の習得に留まらない。言葉とその背景に潜む文化を理解する作業を通じ、自国文化を再認識することもその目的の1つである。外国語を学ぶことで日本語を見つめなおし、国語力を向上させることも期待できるであろう。

異文化との接触には多様な価値観への理解が求められる。そのためには幅広い知識が必要である。語学学習を通して受講者には豊かな教養を身につけてもらいたい。

## II. 担当教員

飯塚 秀樹  
 佐藤 利哉  
 廣田 美玲

## III. 一般学習目標

英文の背景にある文化を理解するよう努めながら英文読解の技能やプレゼンテーションスキルを向上させること。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 英文を正確に解釈するために必要な語彙と文法の知識を身につける。
- 2) 記述内容に関連した文化背景を理解する。
- 3) 外国文化との接触を通じて自国文化を再認識し、教養を高める。
- 4) プレゼンテーションの仕方を学ぶ

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業形式(事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2：ディスカッション 3：グループワーク 4：実習 5：プレゼンテーション 6：その他)

1A・2A・3Aクラス

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	5	12	水	2	テキストに沿って講義を展開する。 範囲・進度については各担当教員が最初の講義で指示する。	飯塚 秀樹 佐藤 利哉 廣田 美玲	1
2		19	水	2			1
3		26	水	2			1
4	6	2	水	2			1
5		9	水	2			1
6		16	水	2			1
7	8	25	水	2			1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
8	9	8	水	2	テキストに沿って講義を展開する。 範囲・進度については各担当教員が最初の講義で指示する。	飯 塚 秀 樹 佐 藤 利 哉 廣 田 美 玲	1
9		15	水	2			1
10		29	水	2			1
11	10	6	水	2			1
12	11	10	水	2			1
13		24	水	2			1
14	12	1	水	2			1
15		8	水	2			1
16	1	5	水	2			1

1B・2B・3Bクラス

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	5	12	水	1	テキストに沿って講義を展開する。 範囲・進度については各担当教員が最初の講義で指示する。	飯 塚 秀 樹 佐 藤 利 哉 廣 田 美 玲	1
2		19	水	1			1
3		26	水	1			1
4	6	2	水	1			1
5		9	水	1			1
6		16	水	1			1
7	8	25	水	1			1
8	9	8	水	1			1
9		15	水	1			1
10		29	水	1			1
11	10	6	水	1			1
12	11	10	水	1			1
13		24	水	1			1
14	12	1	水	1			1
15		8	水	1			1
16	1	5	水	1			1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

期末試験の得点（90%）のほか、講義で積極的に学ぼうとする姿勢を評価（10%）する。単位取得の要件は最初の講義で説明する。必ず予習の上、授業に出席のこと。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書：授業で担当教員が指示する。

参考図書：各種英和辞典。「ウィズダム英和辞典」（三省堂）、「ジーニアス英和辞典」（大修館書店）を推薦図書とする。

VIII. 質問への対応方法

講義時間中に受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP      ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出されたワークシートを評価したうえ，返却します。

XI. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお,シラバス別冊に記載が無い場合,要点を確認しておくこと。(所要時間の目安20分)

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。